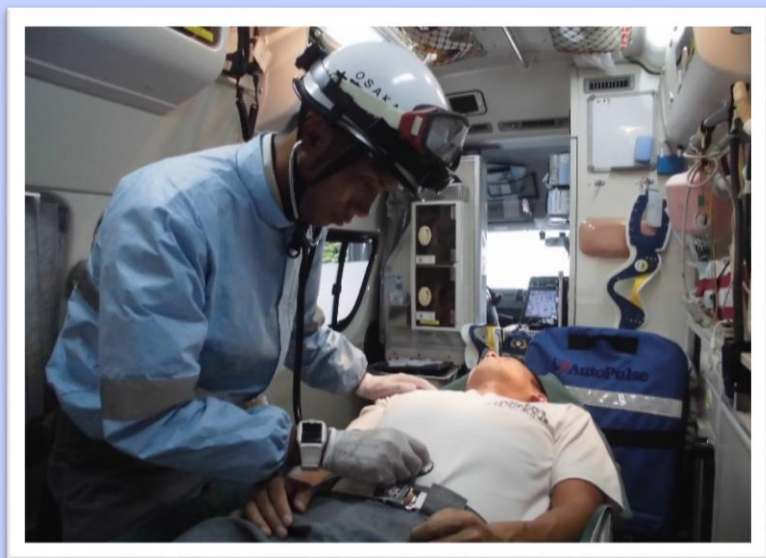
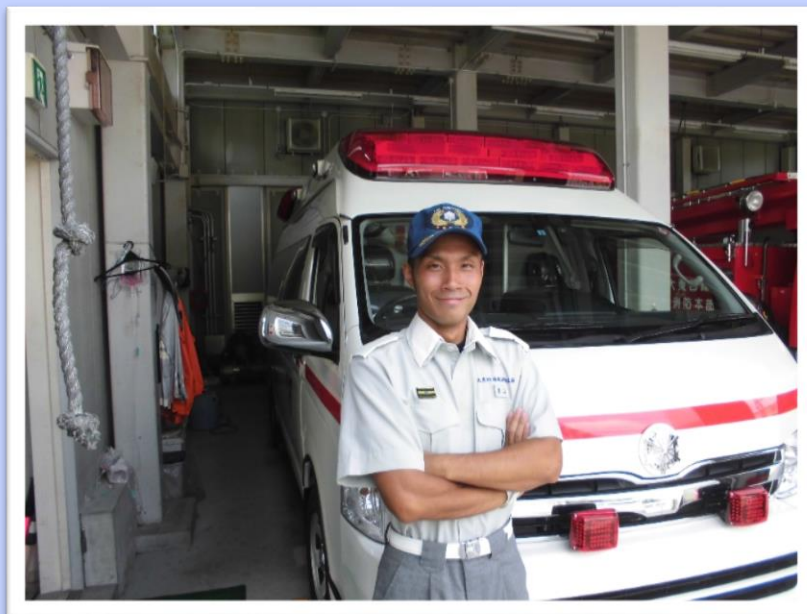


「磨き続けるために」

東分署救急隊 消防士 高山 侑己（平成26年入職）

救命救助隊を目指して

私は生涯の仕事を選択する上で、「自分を磨き続けることができる仕事」に就きたいと考えていました。小学生の頃、大東市で交通事故を目撃し、その場で活動していたオレンジ色の服を着た救助隊に憧れを抱きました。消防について調べているうちに「救急救命士」の資格を持つ消防士がいることを知りました。そして資格を取得するために専門学校へ入校し、最前線での救急医療を学びました。卒業後は、救急救命士の資格を有した救助隊として大東市四條畷市を守りたいと思い、受験しました。



想像とのギャップ

私は3年間、救急救命士養成校にて救急医療を学びました。その中で急病・外傷など様々な訓練、また元消防職員の先生方から実際の体験談を聞くことで、私も救急隊として現場に出たときは、動じることなく対応出来ると思っていました。ところが、実際に救急隊になった今感じている

ことは、救急現場は想像していたものよりも過酷で苦しいものだということです。しかし、そんな状況の中でも市民の方から感謝の言葉を頂いたときには、この仕事にとってもやりがいを感じることができます。

仲間のために

私の好きな言葉は「One for All～All for One」、一人はみんなのために、みんなは一人のためにという言葉です。この言葉は、消防職員にとって大切な言葉だと私は思っています。どんなに苦しく厳しい状況でも、一人ではなくチームとして力を合わせれば、必ず乗り越えられると私は思っています。そして、チーム力を上げるために、私は日々体力と知識の向上に努めています。これから受験を希望されているみなさん！是非チームの一員となり、お互いに切磋琢磨し合い、成長していきましょう。

